



500人の市民が参加して、地域福祉をテーマに開催された「第6回白石市社会福祉大会」(10月7日、中央公民館大ホール)

福祉体験ワークショップは、ボランティア活動に興味を持っている生徒に、高齢者や障害者の福祉について理解を深めてもらい、社会の一員として、地域でのボランティア活動などに役立ててもらおうと、社協が毎年夏休み期間中に行っているもの

福祉体験

ワークショップに参加して



小原中学校1年生 小室一輝さん

福祉の心を学ぶ 福祉体験ワークショップ

僕は、ワークショップに参加して福祉の目的、楽しさなどを知りました。車いす体験では、乗っていると、思った方向に進むことができませんでした。でも、やっているうちに少しずつうまくなってきました。僕でも何かの役に立てるかなという気持ちになりました。目をつぶっての歩行体験は、すごく怖かった。自分では目が見えないなんて想像できませんでした。今回、体験を通して、本当に歩けたら、目が見える価値がわかりました。障害者やお年寄りの心が少しかつたような気がします。これからは、町の中で困っている人を見かけたら、勇気を持って声を掛け、手を貸してあげたいと思います。

今年八月六日、市内の中学・高校に通学している十四人が参加し、市内商店街などで、白つえ体験や車いすに乗っての買い物体験などをしました。また、ふれあいサロンしらゆりを訪れ、障害を持った方と一緒に絵手紙作りなどをして交流を深めました。

これからの地域福祉活動について

白石市社会福祉協議会会長 斎藤政雄さん

「住み慣れた自分の地域や家庭で暮らし続けたい」とする住民意識が全国的に高い意識を示しているのと同様、阪神・淡路大震災以後のボランティア・NPOの活動への関心と参加、平成十年十二月の特定非営利活動促進法、いわゆるNPO法の施行により、「ボランティア活動をやってみよう」「さまざまなボランティア活動に携わりたい」というボランティア・市民活動への参加意欲は拡大し、多種多様な広がりを見せています。

平成十年四月から社協では、介護保険制度により保険対象外となる自立者などへの対応策として、地域を拠点にして住民である当事者とボランティアとが協働企画した「ふれあい・いきいきサロン」を現在三カ所で運営しています。また、自治会を一つの家族ととらえ



車いすに乗っての買い物体験

区内にある集会所で、「ミニいきいきサロン」を定期的に開設している自治会活動が増えてきました。町全体が「ふれあい・いきいきサロン」のように住民の力で活気づき、地域ごとに香りや趣が漂う「まち」コミュニティ(づくり)を進めています。

住民の長い歴史の中で営々とつくりあげてきた伝統や地域への思いやり、情熱をきちんと見直し、これを社会資源として大切にしていこう。地域の中心の人々との信頼関係をつなぎ、よみがえらせていくこと。それが「まちづくり」の原点ではないでしょうか。

現在社協では、「地域福祉」や「ボランティア・NPO」の啓発と推進を行う拠点を整備するとともに、地域のNPOなどの連携により、新しい次元への社会的基礎整備に努めています。



あなたが動く地域が変わる ボランティアが人を育て、まちを育てます

自助・公助・そして互助

高齢者も若者も、障害のある人もない人も、すべての人が個人として尊重され、共に支え合いながら「住み慣れた家で一生暮らしたい。」「……これは誰もが思う当たり前のことです。

地域福祉活動の原点は、「自分の地域や家で暮らし続けたい」という高齢者や障害者の願いを実現することです。

そのためには、高齢者や障害者自らが健康な生活習慣を身につける、何かに生きがいを見いだす、地域の行事に進んで参加するなどの努力(自助)が必要です。また、在宅福祉サービスの充実など行政の支援

(公助)も必要です。そして、もう一つは、地域での支え合い(互助)です。地域で声を掛けたり、お話ししたり、手を添えたりすることで人と人とのふれあいが生まれる。身近なところで、このようなちよっとした行動から互助が始まるのです。

ボランティアは「つながり」を育て、まちを育てます

地域で人と人がふれあい、支え合い、誰もが生き生きと暮らせるまちをつくる。その担い手のひとつがボランティアなのだと思います。ボランティアとは、自分の意志で自分のできることで、何か社会に役立つことをすること……。

しかし、いくらボランティアは自発的だとしても、自分がよいと思うことをなんでも相手にしてあげることではありませぬ。それではただのおせっかいで終わってしまいます。相手の立場に立って、その人が何を望み、何を必要としているのかを理解し、その人の目線で考え行動することが大切なことだと思います。相手と平等なパートナーとして接し、共に歩むことこそ大切なのではないのでしょうか。ボランティア自身も、ボランティアをす

ることで、いろいろなところでいろいろな人と出会い、ふれあいを通じて学びながら育っていきます。ボランティアは「してあげるもの」ではなく、「共にするもの」学ぶもの」なのです。

「心のバリア」を取り除こう

ノーマライゼーションの高まりの中で、さまざまなバリアを取り除こうという動き(バリアフリー)が起きています。市内でも多くの建物にエレベーターが設置され、駅前も段差のない道路として整備されています。

高齢者や障害者が生き生きと地域で生活するためには、三つのバリア(壁)を取り除くことが必要であると言われていきます。一つは設備の壁、二つ目は制度の壁、三つ目は心の壁です。

地域で支え合いながら生きていくために、今、私たちができること、しなければならぬことは、三つ目の「心の壁」を少しずつなくしていくことではないでしょうか。そのためには、高齢者や障害者に優しい心でふれあうこと、理解することが大切であり、そうすることで、バリアのない、誰にも優しい、誰もが住みよい「福祉のまち白石」につながるものだと思います。

さあ、今日からあなたも、心のふれあいを求めて地域の中で活動してみませんか。

社会福祉協議会って?

白石市社会福祉協議会は、社会福祉法に基づいて社会福祉法人を取得している民間の福祉団体です。民間組織としての「自主性」を持つと同時に、広く住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」を持つ団体で、心ふれあう「福祉のまちづくり」を進めています。

住民の福祉活動の場づくり、仲間づくりなどの援助や、社会福祉にかかわる公私の関係者・団体・機関との連携、具体的な福祉サービスの企画、実施などを行っています。

こんな仕事をしています

- 居宅介護支援事業(介護保険対応事業)
- 訪問介護事業(365日訪問介護を提供いたします。)
- 福祉用具貸与事業(適切な福祉用具を貸与いたします。)
- 介護保険対象外となる自立者などへの対応
- いきがいデイサービス事業 自立者支援ホームヘルプサービス事業 (白石市からの委託事業)
- その他の事業
- 生活相談所の運営、要援護世帯への貸付事業、いきいきふれあいサロン、福祉バス運行事業、赤い羽根共同募金による援護、夏・福祉体験ワークショップ、親子キャンプハンディ体験学習、老人福祉センター管理運営など

世代を超えた心のふれあい

まごの郵便

白石市では、一人暮らしのお年寄りの孤独感を少しでも和らげてもらうと、昨年9月から「まごの郵便」(一人暮らし高齢者励ましの手紙郵送事業)を行っています。

これは、市内小学校の児童が書いた励ましの手紙や絵、折り紙などをその児童の学校区内に居住する一人暮らしのお年寄りの自宅に白石郵便局員がお届けするものです。その際、郵便局員によるお年寄りへの励ましの声掛けや安否の確認も行われています。

お届け先は、75歳以上の一人暮らしの高齢者など約3500人です。

まごの手郵便の発送は月1回程度ですが、お年寄りからは「毎回楽しみにしています」と大変喜ばれており、中には子供たちにお礼の手紙を出される方もいます。このまごの手郵便がきっかけとなり、子供たちがお年寄りの自宅に遊びに行ったり、また、お年寄りが学校の行事に参加するといった交流も進められています。

